

株主メモ

事業年度	毎年2月21日から翌年2月20日まで
定時株主総会	毎年5月開催
基準日	定時株主総会・期末配当金／毎年2月20日 中間配当金／毎年8月20日
公告方法	そのほか必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日 電子公告により行ないます。 http://www.palemo.co.jp/ ※事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告を することができない場合は、日本経済新聞に掲載します。

株主名簿管理人および
特別口座の口座管理機関

東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社

以前は、旧株式会社鈴丹の株主様の特別口座に関するご照会先は、三菱UFJ
信託銀行株式会社でしたが、三井住友信託銀行株式会社になりました。

株主名簿管理人 名古屋市中区栄三丁目15番33号
事務取扱場所 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
郵便物送付先 〒168-0063
東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
電話照会先 ☎ 0120-782-031

株主優待



株主の皆様方のご支援に対する感謝の印といたしまして、
毎年2月20日現在の株主名簿に記載された300株以上
保有の株主の皆様方に対し、下記のとおり株主様ご優待
品を進呈いたしております。

300株以上	1,000株未満	1,000円のクオカード
1,000株以上		3,000円相当のカタログギフト

愛知県ファミリー・フレンドリー企業登録



登録年月日 平成 20 年 2 月 15 日
登録番号 C 0 0 2 4

仕事と生活の調和のとれた働き方ができる職場環境づくりに取り組む
愛知県ファミリー・フレンドリー企業として登録いたしました。

上場株式等の配当等に係る10%（所得税7%、住民税3%） 軽減税率の廃止について

2014年1月1日から上場株式等の配当等に係る10%軽減税率（所
得税7%、住民税3%）は廃止され、本来の税率である20%（所得
税15%、住民税5%）となりました。
これにより、2014年1月1日から2037年12月31日までは「復興特別
所得税」を含め20.315%の源泉徴収税率が適用されます。

株式に関する住所変更等のお届出およびご照会について

証券会社の口座をご利用の場合は、三井住友信託銀行ではお手続
きできませんので、取引証券会社へご照会ください。
証券会社の口座のご利用がない株主様は、左記電話照会先までご
連絡ください。

特別口座について

株券電子化前に「ほふり」（株式会社証券保管振替機構）を利用されて
いなかった株主様には、株主名簿管理人である左記の三井住友信託
銀行株式会社に口座（特別口座といいます。）を開設しております。

株式関係業務におけるマイナンバーの利用

法令に定められたとおり、支払調書には株主様のマイナンバーを記載
し、税務署へ提出いたします。

[主な支払調書]

★配当金に関する支払調書

★単元未満株式の買取請求など株式の譲渡取引に関する支払調書
マイナンバーの利用範囲には株式の税務関係手続きも含まれます。
株主様は、お取引の証券会社等へマイナンバーをお届けください。



第34期 報告書
[2018.2.21.～2019.2.20.]

～Doing it～

皆様の豊かさ・成長・満足の実現のために



パレモ・ホールディングス株式会社

証券コード:2778



代表取締役社長

吉田 馨

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。当社グループ第34期報告書をお届けするにあたり、謹んでご挨拶申し上げます。

この第34期におけるわが国経済は、企業収益や雇用環境の改善を背景に個人消費の持ち直しも見られ、景気は緩やかな回復基調が継続する一方で、海外経済におきましては、米中間の通商問題や中国経済の成長鈍化など不安定な状況が見られるなど、先行きは不透明な状況で推移しました。

当社グループが属する専門店業界におきましては、インバウンド需要の継続などにより堅調な推移となる業種も一部で見られましたが、業界全体では慢性的な人手不足による人件費の高騰や、相次ぐ自然災害、天候不順等の影響もあり、厳しい環境で推移しました。

このような環境の中、当社グループにおきましては、今後のグループ全体の「成長」を目的に、当連結会計年度を初年度とした中期経営計画を策定し、アパレル事業におきましては、シーズンMD（マーチャндаイジング）の精度向上による品揃え並びに在庫の最適化を追求するとともに、雑貨事業におきましては、各業態でのMD再編を進めることで、基幹事業の更なる競争力向上に取り組んでまいりました。また今後の成長エンジンの創出として、アパレル事業の新規ブランドと雑貨事業の300円均一雑貨ショップを中心に新規出店を加速し、店舗数の純増についても注力してまいりました。

第34期におきましては、気候、災害の影響から既存店舗が苦戦する中、新規出店の拡大に舵を切ったことから、売上高におきましては、前期並みの水準となりました。しかしながら、営業利益、経常利益は上半期終了時点で修正した計画は上回ったものの、期初の計画には届きませんでした。

「中期経営計画」の2ndステージにあたる第35期におきましては、基幹事業における収益の安定化に向け、MD精度の向上、商品供給の最適化を進めるとともに、増収増益基盤の構築に向け新規出店の拡大並びにEC事業（ネット通販）への対応強化に注力し、永続的安定成長を実現してまいります。

なお、当期の期末配当金につきましては、1株につき3円の普通配当に、このたびの東京証券取引所市場第二部への市場変更と名古屋証券取引所市場第二部への新規上場を記念した配当金3円を加えた6円となり、当期の年間配当金については、2018年11月に実施いたしました1株当たり3円の中間配当金と合わせて1株当たり9円とさせていただきます。引き続き業績の向上に努め、グループ経営の基盤構築に向けた内部留保とのバランスを考慮しつつ、株主の皆様へ還元できるよう増配を目指してまいります。

株主の皆様におかれましては、当社グループの事業戦略に、より一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

指針

正しい経営

ローコスト経営

安定成長

人財経営

トピックス TOPICS

東京証券取引所市場第二部への市場変更及び
名古屋証券取引所市場第二部への
新規上場に関するお知らせ

当社は、2019年3月26日をもちまして、東京証券取引所市場第二部への上場市場変更及び名古屋証券取引所市場第二部への新規上場をさせていただきます。これもひとえに株主の皆様をはじめ、お客様、お取引先様など多くの関係者から賜りましたご支援、ご厚情の賜物であることより感謝申し上げます。

今後とも皆様のご期待にお応えべく、業容の拡大と企業価値の向上、そして株主価値の拡大を図り、永続的安定成長の実現に向けグループ一丸となって一層精励してまいります所存でございます。

Q1 当連結会計年度の業績について
お聞かせください

当連結会計年度の業績は、売上高232億68百万円、営業利益7億円、経常利益7億12百万円、親会社株主に帰属する当期純利益5億53百万円となりました。

当連結会計年度のアパレル事業におきましては、酷暑や暖冬といった天候不順による影響を受けながらも、シーズンMDの精度向上と適正在庫コントロールを徹底したことで、年間通して安定的な推移となりました。一方、雑貨事業におきましては、300円均一雑貨ショップの「illusie300（イルーシーサンマルマル）」で積極的に出店を行ったことで店舗数及び売上増につながったものの、バラエティ雑貨ショップでシーズン商品の不振に加え、ヒット商品にも恵まれなかったことから苦戦が続きました。このような状況から、全社の既存店売上高前年同期比は97.6%にとどまりました。

利益面におきましては、売上総利益率でアパレル事業の冬物商品の消化が堅調に推移し、春物商品への切り替えがスムーズに進んだほか、ラージサイズの荒利益率が向上したことにより0.2%の改善となりました。しかしながら、経費面におきましては、上半期に引き続き、

店舗での欠員解消に向けたパートタイマー、アルバイトの時給アップ、既存従業員に対する処遇改善などで人件費が上昇したほか、新規出店の拡大に伴うインシヤルコストも増加したことから、営業利益、経常利益共に減益となりました。また親会社株主に帰属する当期純利益におきましても、前連結会計年度に退職給付制度改定益として1億59百万円を特別利益に計上したことに加え、税効果会計に伴う法人税等調整額を△1億65百万円計上しておりましたが、当連結会計年度におきましては、法人税等調整額が11百万円の計上となったため、大幅減益という結果となりました。

店舗の出退店におきましては、新規出店は前期を大きく上回る38店舗となり、急激な商環境の悪化で不採算となった店舗や、契約満了となった店舗など29店舗閉店した結果、当連結会計年度末現在の店舗数は478店舗となりました。

当社グループは、この4年間に及ぶ「事業構造改革」において、不採算店舗の見直しと基幹事業の収益改善を最優先に取り組み、次代の成長に向けた新規ブランドの出店拡大にも注力したことから一定の成果をあげることができました。今後におきましては、増収増益を前提に「成長」を目的とした3ヵ年の中期経営計画を推進し、新たな挑戦に向けたグループ経営の基盤構築を図ってまいります。

Q2 中期経営計画の進捗について
お聞かせください

中期経営計画の初年度である当期については、「基幹事業の競争力向上」、「成長エンジンの創出」、「安定成長に向けた人財戦略」の3つの基本テーマを推進し、その諸施策に取り組んでまいりました。

「基幹事業の競争力向上」については、この4年間の取り組みが奏功し、アパレル、雑貨の両事業で在庫低減が進み、商品鮮度の改善が進行しました。特にアパレル事業においては、ファッショントレンド商品の取り込みと、実需商品での必要アイテムのバランスを常に最適な状態に保つことを主眼に取り組み、期中での対応力、修正力が向上しました。今後は更なるMD精度向上と、需要の変化に迅速な対応ができるようQR（クイックレスポンス）生産にも注力してまいります。雑貨事業におきましては、バラエティ雑貨の抜本的なMD改革並びに在庫の適正化を推進しており、今後これらの取り組みが業績に反映されると考えております。またライフスタイル提案型業態につきましては、リブランディングが順調に進んでいることから、今後は都心型出店へのチャレンジも視野に入れ商品構成の見直しを強化しているところです。

「成長エンジンの創出」につきましては、アパレル事業の主力ブランド「Ludic Park（ルディックパーク）」、雑貨事業の好調ブランド「illusie300（イルーシーサンマルマル）」を中心に店舗拡大してまいりました。特に出店を強化した「illusie300」につきましては、認知度向上に伴いメディアの注目度もあがるなど、マーケットニーズを的確にとらえているものと認識しており、今後も出店を拡大してまいります。またEC事業（ネット通販）におきましては、自社サイトのリニューアルをはじめ本格的な投資と人員体制の拡充を図っており、事業規模拡大による収益改善が着実に進展しております。

「安定成長に向けた人財戦略」につきましては、当社グループが今後更なる「成長」を目指していく上で人財の確保、育成は重要な課題であると考えております。今後も前期に引き続き、店舗での欠員解消への取り組みを強化するとともに、新たな事業に挑戦できる次世代リーダーの育成にも注力してまいります。

中期経営計画の2年目にあたる今期は、基幹事業における収益の安定化に向けMD精度の向上、商品供給の最適化を進めるとともに、増収増益基盤の構築に向け新規出店の拡大並びにEC事業への対応も強化し、永続的安定成長を実現してまいります。

アパレル事業の概況

GENERAL CONDITION OF APPAREL BUSINESS

アパレル事業におきましては、新規ブランドによる出店拡大を進めており、主力3ブランドの店舗数は前期29店舗から41店舗に増加しております。

当期におきましては、幅広い立地、客層に向けた主力ブランド「Ludic Park(ルディックパーク)」10店舗、都心、大型モール立地を中心にターゲット客層を明確にしたブランド「DAISY MERRY(デイズメリー)」1店舗、既存ブランド「RecHerie(リシェリエ)」1店舗を出店しております。次期以降の収益拡大と主力ブランド化への成長を目指し、12店舗の出店の内、11店舗を新規ブランドとしました。今後も「Ludic Park」中心に出店拡大並びに既存店舗におけるブランド転換を含めた改装も実施し、更なる店舗数の純増を図ってまいります。

ルディックパーク

Ludic Park

遊び心を程よく取り入れた自分らしいファッションを、楽しくセレクトできるショップです。エレガンス・クール・カジュアルまで幅広い客層へに向けた最新トレンドと、着まわしのきくベーシックアイテムをお手頃プライスで提案します。

リルデシュシュ

Lilou de chouchou

いつまでもかわいく輝いていたい女性に向けて、毎日のHAPPYを演出します。エレガンスをベースに程よくトレンドを織り交ぜながらON&OFFあらゆるシーンも自分らしく楽しめる上品で女性らしいファッションを提案します。

デイズメリー

DAISY MERRY

大人の心と少女の心を持ち合わせたいくつになってもかわいくオシャレでいたい女性に向けて…かわいだけでなく、どこかボーイッシュ、ほんのりガリーーと、遊び心を取り入れた今欲しいリアルクローズを手頃なプライスで提案します。

ギャルフィット

GAL FIT

「フェミニン&クール」をテーマに、リラックス感のあるカジュアルスタイルとエッジの効いたモードスタイルを提案します。

スズタン

suzutan

「エレガンス&フェミニン」をテーマに、幅広い客層へ最新トレンドと着まわしのきくベーシックアイテムを提案します。

リシェリエ

Recherie

「フェミニン」をキーワードに、ベーシックでリラックス感のある大人のカジュアルスタイルを提案します。

リジェイ・スプル

Re-J

「デイリー&リラックス」をテーマに、ベーシックアイテムとシーズントレンドを程よくMIXした“大人カジュアル”を提案するラージサイズSHOPです。

SUPURE

「フェミニン&カジュアル」をテーマに、上品さと着心地を大切にラージサイズSHOPです。

雑貨事業の概況

GENERAL CONDITION OF MISCELLANEOUS GOODS BUSINESS



雑貨事業におきましては、300円均一雑貨業態「illusie300(イルーシーサンマルマル)」の出店拡大が予定以上に進行しており、店舗数は前期39店舗から57店舗に増加しております。

当期におきましては、300円均一でライフスタイルを提案する「illusie300」20店舗、バッグ専門店の「INCENSE(インセンス)」

シーベレット

Siebelet

「毎日、楽しく」をテーマに、話題性あるファンシー雑貨と生活雑貨を提案します。

インセンス

INCENSE

「MY BAGを探す楽しさや、見つけた時の喜びを共有できるBAG SHOP」自分のスタイルを確立した大人の男女に、「オンリーワン」のバッグを提案します。

アパレル事業ブランド別の状況				
	(単位:店舗)			
	出店	退店	ブランド転換	当期末店舗数
レギュラー店舗	12	11	0	268
ルディックパーク、9スクエア	10	0	2	29
リルデシュシュ	0	0	0	9
デイズメリー	1	1	0	4
リシェリエ、ドスチ	1	2	1	38
ギャルフィット、スズタン 他	0	8	△3	188
ラージサイズ店舗	0	5	0	39
アパレル事業合計	12	16	0	307

2店舗、雑貨とアパレルでライフスタイルを提案する「木糸土(モクシド)・Hare no hi(ハレノヒ)」4店舗を出店しております。主力ブランドに成長した「illusie300」については、今後も商品供給並びに人員体制の拡充により出店を更に加速してまいります。

イルーシー300

illusie300

「日常に彩り」をテーマに、300円のプチプライスでライフスタイルを提案します。

木糸土・ハレノヒ

木糸土

木・糸・土の素材を活かし、「無理なく、無駄なく」をコンセプトに、シンプルで飽きのこない生活雑貨を提案します。

Hare no hi

「ナチュラルライフ」をテーマに、アパレル、雑貨をトータルにコーディネート。ライフスタイルを提案します。

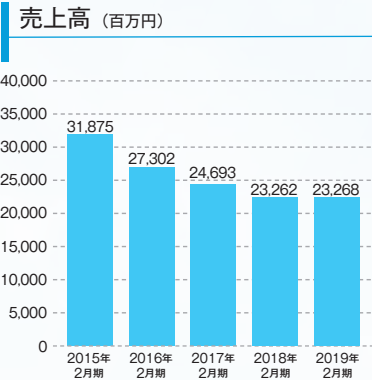
雑貨事業ブランド別の状況				
	(単位:店舗)			
	出店	退店	ブランド転換	当期末店舗数
イルーシー300	20	2	0	57
シーベレット	0	6	0	54
インセンス	2	1	0	32
木糸土・ハレノヒ	4	4	0	14
雑貨事業合計	26	13	0	157
複合店(※)	0	0	0	14
全社合計	38	29	0	478

(※) 複合店とは、アパレル事業、雑貨事業のブランドを複数合わせた店舗です。

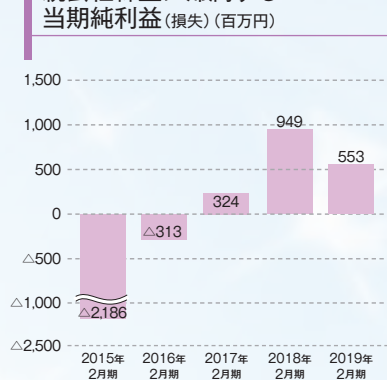
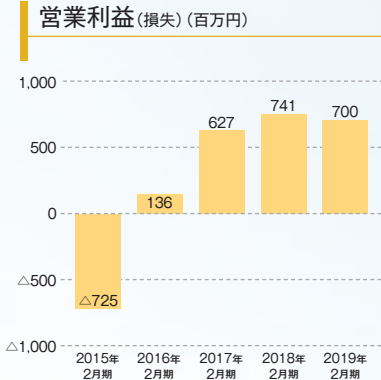
連結財務諸表 FINANCIAL STATEMENTS

連結貸借対照表 (単位:百万円)		
	当連結会計年度 (2019年2月20日現在)	前連結会計年度 (2018年2月20日現在)
■資産の部		
流動資産	5,639	5,265
固定資産	5,698	5,116
有形固定資産	1,140	833
無形固定資産	33	13
投資その他の資産	4,524	4,269
資産合計	11,338	10,381
■負債の部		
流動負債	5,921	5,303
固定負債	1,895	2,051
負債合計	7,816	7,355
■純資産の部		
株主資本	3,506	3,025
資本金	100	100
資本剰余金	1,979	1,979
利益剰余金	1,430	949
自己株式	△3	△2
新株予約権	15	－
純資産合計	3,522	3,025
負債及び純資産合計	11,338	10,381

連結キャッシュ・フロー計算書 (単位:百万円)		
	当連結会計年度 〔2018年2月21日から 2019年2月20日まで〕	前連結会計年度 〔2017年2月21日から 2018年2月20日まで〕
④ 営業活動によるキャッシュ・フロー	901	221
⑤ 投資活動によるキャッシュ・フロー	△847	△132
⑥ 財務活動によるキャッシュ・フロー	197	△635
現金及び現金同等物の増減額	251	△546
現金及び現金同等物の期首残高	2,222	2,768
現金及び現金同等物の期末残高	2,473	2,222



注:2018年2月期第2四半期までは、連結決算移行前の数値を記載しております。



企業データ CORPORATE DATA

会社概要 (2019年2月20日現在)

社 名 パレモ・ホールディングス株式会社
設 立 1984年11月22日
資 本 金 1億円
本 社 所 在 地 〒492-8680
愛知県稲沢市天池五反田町1番地
従 業 員 数 2,664名(グループ含む)
(ナショナル社員158名、エリア社員2,506名)
事 業 内 容 事業子会社の経営管理等
ホームページ <http://www.palemo.co.jp/>

役員 (2019年5月16日現在)

代表取締役社長 吉 田 馨
専務取締役 永 井 隆 司
取締役 福 井 正 弘
取締役 竹 中 幹 雄
取締役 永 田 昭 夫
取締役 赤 塚 憲 昭
常勤監査役 土 田 新 一 郎
監査役 平 岡 繁
監査役 今 枝 剛
監査役 川 口 直 也

注：取締役のうち、永田 昭夫、赤塚 憲昭の両氏は社外取締役であります。
監査役のうち、今枝 剛、川口 直也の両氏は社外監査役であります。

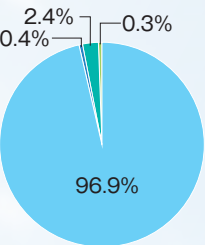
株式情報 (2019年2月20日現在)

発行可能株式総数	27,360,000株
発行済株式の総数	12,051,384株
単元株式数	100株
株主数	7,659名

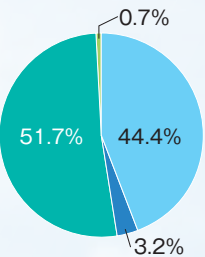
大株主 (2019年2月20日現在)

株 主 名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
エンデバー・ユナイテッド・パートナーズ・スリー投資事業組合 エンデバー・ユナイテッド・パートナーズ・ツー株式会社	6,040	50.11
個人株主A	1,324	10.99
パレモ従業員持株会	197	1.63
SMBC日興証券株式会社	133	1.10
株式会社三菱UFJ銀行	130	1.07
個人株主B	75	0.62
個人株主C	60	0.49
岩間商事株式会社	58	0.48
個人株主D	50	0.41
個人株主E	40	0.33

株主構成 (2019年2月20日現在)



株主数構成比	株主数	構成比
個人株主その他	7,423名	96.9%
証券会社・金融機関	28名	0.4%
その他国内法人	185名	2.4%
外国法人・個人	23名	0.3%
合計	7,659名	100.0%



株式数構成比	株式数	構成比
個人株主その他	5,356,789株	44.4%
証券会社・金融機関	387,054株	3.2%
その他国内法人	6,228,402株	51.7%
外国法人・個人	79,139株	0.7%
合計	12,051,384株	100.0%